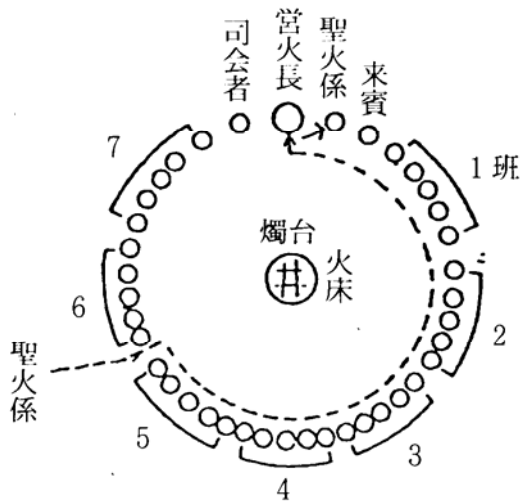


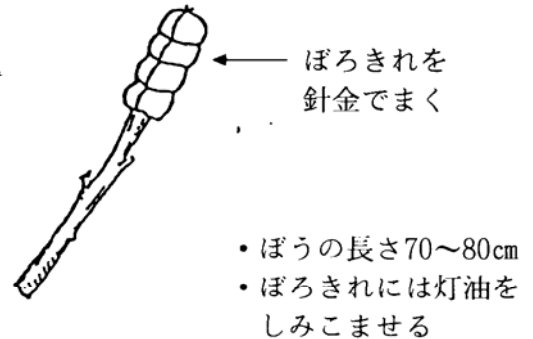
キャンプファイヤー (ボンファイヤー)

岩手県立県北青少年の家

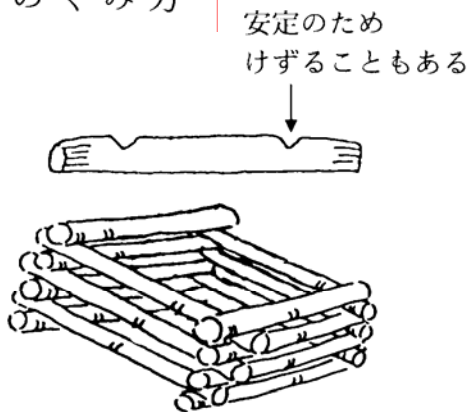
※ 体形のくみ方



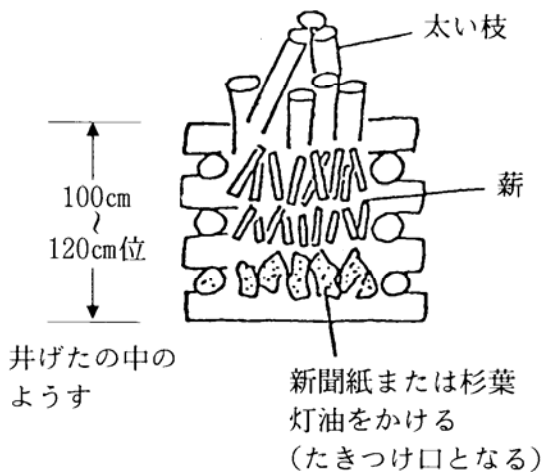
※ トーチのつくり方



※ 薪のくみ方



井げたの組み方の例



<p>概要</p>	<p>キャンプ・ファイヤーは大騒ぎするものではなく 野外生活で欠くことのできない火に対して最後の晩に感謝するもの。 野外での生活を楽しむ儀式である。 キャンプの成果を語り合うまとめの儀式の演出としての火である。 暖を取りながら語り合うものである。 身を守るために火を燃やした野外活動の知識である。</p> <p>など</p> <p>いろいろな解釈がなされるようだ。</p> <p>自然の中で、たき火を囲み、ひとときを過ごすことは、自己を見つめること、集団を考えること、そして自然を考えるなど、日頃あまり経験できない機会を得ることができるだろう。また、静かな夜にやわらかい火を見つめながら、ゆったりと過ごすことで、個に応じたとらえ方も尊重でき、豊かな感性を磨きあげることができるだろう。</p>
<p>場所</p>	<p>営火場(第1~第4)</p>
<p>所要時間</p>	<p>1時間~2時間</p>
<p>準備</p>	<p>薪、灯油、マッチ、新聞紙、トーチ、その他活動に必要なもの</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薪、灯油実費販売。余った薪と灯油の入ったペットボトルは、所定の場所にもどすこと。 ・ 薪の組み方は、原則として自主。 ・ キャンプファイヤー終了後は、内線電話か直接、事務室へ連絡すること。 ・ 灰は、21:30をめぐりに燃焼させ、水で消火したあと翌日後始末をし、各営火場脇のドラム缶に入れる。

火の取り扱いには十分注意すること。